

萩博物館リニューアル・松下村塾開塾150年記念

長門の虎の巻

ちょう だん じ きも たま

松門四天王と桂小五郎



吉田稔磨いわく—
高杉晋作は離れ牛
久坂玄瑞は廟堂の政治家
入江九一は木剣
山県有朋は棒

原田大二郎画

2007年 9.15(土)~12.16(日)

H a g i H a k u b u t u k a n
萩博物館

- ◆開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- ◆観覧料：大人500円 高校・大学生300円 小・中学生100円
【団体割引】20名以上20%引 【障害者割引】20%引
- ◆駐車場：普通車66台 バス8台



〒758-0057 山口県萩市大字堀内 355 番地 TEL 0838-25-6447 FAX 0838-25-3142 URL: www.city.hagi.yamaguchi.jp/hagihaku/

松下村塾開塾150年記念展

松門四天王と桂小五郎

今をさかのぼること150年前の安政4年(1857)、萩松本村にわずか8畳の講義室しかもたない私塾が開かれました。その名は松下村塾。塾生たち自らの手で増築された建物はそのまま現在に伝えられ、今なお全国から訪れる人々に深い感銘を与え続けています。

塾を主宰したのは吉田松陰^{よし だしょういん}。指導したのは3年にも満たない短い期間でしたが、松陰の「志」を受け継いだ塾生たちは、幕末から明治にかけての日本をリードしてゆきます。

本展覧会ではとくに、「松陰門下の四天王」とうたわれる高杉晋作^{たかしぎしん さく}・久坂玄瑞^{く さげんずい}・吉田稔麿^{よし だとしまろ}・入江九一^{いり えく いち}、そして「塾生の兄貴分」であった桂小五郎^{かつらこ ごろう}（木戸孝允^{き と たかよし}）の生きざまを、彼らが残した資料からたどります。下関での挙兵を前に「長州男児の肝っ玉をお目にかけます」と誓った晋作。幕末維新の変革に命をかけた若き塾生たちの思いに迫ります。

高杉晋作が下関挙兵時に身につけた甲

桂小五郎（木戸孝允）が戯れに描いた蘭の図

入江九一・高杉晋作・堀真五郎の三烈士血盟書

吉田稔麿が池田屋事件時に身につけた財布

画＝「近世遺賢高名像伝」「義烈回天百首」（春風文庫蔵）より

9月15日(土)：常設展示室リニューアルオープン 萩博物館が変わります。

ギャラリートーク 当館学芸員・研究員が展示解説を行います。

9/15日(土)・22日(土)、10/6日(土)・20日(土)、11/3日(土)・17日(土)、12/1日(土)・15日(土)の午後1時半から約1時間。

交通アクセス

- ◎ JR東萩駅よりタクシー10分
- ◎ 萩バスセンターより
まあるバス西回り5分
「萩博物館前」下車
- ◎ 中国自動車道小郡IC、美祿ICより50分
- ◎ 山陽自動車道防府東ICより60分

Hagi Hakubutukan
萩博物館

〒758-0057 山口県萩市大字堀内 355 番地
TEL: 0838-25-6447 FAX: 0838-25-3142
E-mail: muse@city.hagi.yamaguchi.jp

